

5月



イグナチオ年

カトリック麹町教会



Ignatius

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスがたたく希望の扉をひらいていこう 新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ



助任司祭になること

ベトナム人グループとともに教会全体を！

助任司祭 グエン・タン・ニャー

教会の皆さん、主の御復活、おめでとうございます。新助任司祭の挨拶を書きますが、私はこの教会の多くの新人ではありません。2020年4月から協力司祭として派遣されていました。この2年間、主な仕事はベトナム人共同体の世話をするものでした。そのため、教会全体の活動にあまり関わることが出来ませんでした。いろいろな面でお世話になっています。そして、今年の4月から助任司祭として働くことになり、これからは皆さんと一緒にこの教会での信仰共同体の一員として歩むことを願っています。

復活祭後から教会で典礼やミサなどを行うほかに、ベトナム人のためのセンターと当教会の福祉関連グループを担当させて頂きます。この二つの仕事を簡単に紹介いたします。

まず、ベトナム人の司牧のためのセンターですが、1980年代、ベトナム戦争の終戦直後、政治的、宗教的理由で迫害されたベトナム人が日本にやってきました。東京周辺に住んでいたベトナム人が聖イグナチオ教会に集まり、信仰生活を送りました。当時、世話をしていた司祭はグエン・フー・ヒエン神父です。

2010年頃からベトナム人の技能実習生と留学生が増加してきました。2017年、私が叙階されて、ヒエン神父と共にベトナム人の共同体、特にベトナム人の青年たちの世話をしています。現在、日本に住んでいるベトナム人は約45万人で、殆どが20代です。当教会にはコロナ禍前、毎月2回ベトナム語のミサがあり、各ミサには約1000人が参加していました。数年前にベトナム人の青年会を作り、現在、ベトナム人カトリックの若者の世話役約120人が教会に通っています。さらに、コロナ禍によって、帰国困難者がたくさん出てきて、最近では、毎週のように洗礼式や結婚式などがあります。

ベトナム（) 共同体の安全と平安の「安」を願って名付けたアン・ベトセンター（) を、これからベトナム共同体に、より奉仕するために開設します。

そして、福祉関連グループは今までブラザー吉羽が担当してきました。この福祉関連グループは貧しい人々のために活動しているグループです。特に、「あしたのいえプロジェクト」は困っている人々に安全な場所を提供できるもので、こ

れは意義ある活動であり、今後ともたくさんの方々のご協力を得て、活動し続けたいと考えています。

当教会の司祭団の中で一番若い神父なので、体力がありますが、知識や経験などが不足しています。教会の助任司祭になる任命を受けて、喜びと同時に不安を感じました。自分がどこまで奉仕できるのかを心配しているからです。今もまだその心配を抱えています。しかし神さまの恵みと皆さんの助けを信じて、皆さんと一緒に喜びを持って、神と人々に仕えることができるように頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

教会報 MAGIS 5月号

† 「新しい協働」 フォーラム 最終回	P2-3
† 四旬節黙想会	P4-5
† 聖イグナチオと聖フランシスコ・ザビエル 列聖 400 周年ミサ	P5
† 2022年度信徒評議員	P6
† ベトナム語共同体から	P7
† 訃報 クラウス・リーゼンフーバー神父	P7

【5月の共同祈願】

聖母マリア

苦しむ人々と共にいて下さい。

世界から憎しみを取り除き、平和をもたらして下さい。

困難の中にあっても

希望を持ち続けることができますように。

担当：マルタとマリアの会

【ミッション2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、若いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

ミッション2030

第6回「新しい協働」フォーラム(最終回)

「英神父さまと語り合おう」

「ミッション2030」をテーマに

2022年3月20日(日) 13時より、「ミッション2030」の4番目の柱「新しい協働」の第6回フォーラム(最終回)がヨセフホールにて開催されました。対面とオンライン(Zoom)の併用で行われ、2016年に教会の基本理念として制定された「ミッション2030」について英隆一朗主任司祭(当時)が総括され、170名の参加者が分かち合いを行いました。

(担当H)

主任司祭の講話

4つの柱について

着任した2014年の9月、

宣教司牧評議会の研修会のメンバーから、行事を減らして活動を見直したらどうかという意見が出たことが「ミッション2030」を制定するきっかけです。2015年、ヨセフホールで初めて「教会生活見直しワークショップ」を開き、大々的にアンケートを行いました。その結果をふまえ、約1年間ワークショップを続けたあと、「ミッション2030」を教会の方針とすることに決めました。何を大事にし、行っていくのか、2030年

を見すえ、皆で一つの方向

に向かって歩み出しました。

作って終わることだけは避

けたかったので、具体的に

行っていくためのミッ

ション促進チームが同

時にスタートしまし

た。その時に掲げた

前文(右上・囲み参

照)には、さまざま

な想いが込められて

います。「イエズス会

使徒職全体の方向づ

け(UAPS)」、フラ

ンシスコ教皇の「殻に

閉じこもらず、教会

は野戦病院であれ」

という力強い言葉、

2015年の「いつく

しみの特別聖年」で

の呼びかけ「誰も神

のいつくしみから排除される
ことはない」、そして、とも
に歩むイエスの姿などです。

「ミッション2030」には
4つの柱があります。

① 祈りを深める

自らの召命をしっかりと受
けとめ信仰と生活を統合
し、キリストの使徒として

生きるため、神との生きた
交わりを深める霊的養成
(聖イグナチオの霊操に基づ

いて)を心がける。

② 福音を伝える

社会全体の福音化をめざ
して、どんなところ(教会・

職場・家庭など)においても、
共同体として、また個人と
して、仕える心で、与えら
れた使命を果たしていく。

③ 共同体を生きたる

この教会が誰にとっても「わ
が家」であると思えるよう
に、どんな人も迎え入れ、
互いに支え合いながら、つな
がりを大切にしていく。

④ 新しい協働

①から③の柱を実現してい
くために、信徒がより主体
的になり、司祭、修道者と
よりいっそう協力できる体
制を構築していく。さらに、
イエズス会の教会としてのア
イデンティティを保ち、東京
教区の一員として連携して
いく。

それぞれの
アクションプラン

「ミッション2030」の進
め方として、1年にひとつづ
つ重点をおいて、行事やキャ
ンペーンを行うことにしまし
た。ミッション促進チームが
発足し、4つの柱に対応し
てつくった4つのグループそ
れぞれが計画・立案し、ア
クションプランと称してさま
ざまなことを行ってきました



▲英神父様、今までありがとうございました！

た。そのプランと実現した内容は以下のとおりです。

祈りを深める

(2017年度)

- ① 一人ひとりの霊的刷新から、自分の召命を意識し、使命を見いだす
- ② 5年後、10年後を意識した活動グループの刷新
- ③ 実際に祈る機会をつくる工夫。「祈りのとりなし隊」発足
- ④ 典礼の見直し・学び直しと工夫
- ⑤ 共同体で祈る機会をつ



▲最終回まで、大勢の信徒が熱心に分かち合いを行った

くる。聖体礼拝、十字架の道行、ロザリオの祈りなど伝統的な信心の他、ラビリンスウォーク、聖書通読など

福音を伝える

(2018年度)

- ① 新しく来る人をインターネットで迎え入れる体制の充実。ネット配信、ホームページ、Facebookの活用など
- ② 新しく来る人を迎え入れる体制。日曜午前中のウェルカムテーブルの設置
- ③ 信徒の入門講座開設の準備。東京教区のカテキスタ養成講座に信徒を派遣
- ④ エコロジーについての学習や活動の充実
- ⑤ 2020東京オリンピック大会の歓迎体制の準備。QRコードを使った教会案内を各聖堂入口に設置
- ⑥ 防災委員会の再開。「防災小委員会」の提言を受け、柴田潔神父が「防災対応チーム」の立ち上げを準備中
- ⑦ 今、困っている人を助ける具体的な活動。「あしたのいえ」

ロジエクト」発足、「大人食堂」開催

共同体を生きる

(2019年度)

- ① 受洗者の後追い調査をし、改善点を探す
- ② 行事を共同体的なつながり作りを生かしていく工夫
- ③ 小共同体づくり。多様な居場所をつくる工夫。代父母の会「シャロンのバラの会」発足
- ④ 高齢信徒のケアと葬儀の見直し
- ⑤ 青少年の活動の活性化の工夫。インターナショナルグループを中心としたワールドユースデー・ボランティア派遣、イグナチオユースデーの開催
- ⑥ 障がい者や高齢者など弱い立場にある人への配慮を心がける。視覚障がい者や高齢者のために、しゃべった言葉が文字になるUDトークを検討中

新しい協働

(2020年度・コロナウイルス感染症により1年遅れて実施)

- ① 協働委員会の設置。司祭減少に対して、信徒の役割の拡大を考え、計画を練

る。「ミッション2030小委員会」を設置し、教会活動連絡会議の再編成・他グループと連携するための活動の見直しなどを検討中

② 東京教区との連携。年次報告のための総会を年一回開催

③ イエズス会の教会としてのアイデンティティとミッションの共有。イグナチオ年、UAPS、イエズス会難民サービス(JRS)基金

これからの展望

今後は、イエズス会の4つの教会(麹町、六甲、祇園、山口)との連携を、巡礼企画などを通して強めてもらえたらと思います。六甲教会では巡礼の企画の実現に向けて、2017年に列福された高山右近の1日巡礼など、すでにアイデアがわいています。

その他のアクションプランの内容は練り直したらよいと思います。前文も作成当時から状況が変化しているのので、「インターナショナルコミュニケーションを指す」と加えたいです。2030年までに、より具体的になることを願っています。

ています。

当教会は人数が多く、それぞれが求めているつながり方が異なっています。毎週・毎日来る人は小さなグループづくり、年に1回来る人にはメールマガジンの配信、高齢者には手紙の送付など、それぞれに合った多様なつながり方を考えていきましよう。ゆるやかなネットワーク的なつながりになると思いますが、実現するには絶えず、工夫が必要です。

そして、ニーズを感じることをぜひやってください。世代ごとに、やりたいことをやりたい人ができる生き生きとした教会を目指しましょう。このフォーラムのように皆で分かち合いをしながら、活動参加者を募るとよいと思います。

これからもミサを大事にし、前向きに工夫しながら歩んでいきたいです。

*詳細は教会ホームページか事務室前などに配架のニューズレターをご覧ください。

*今回のフォーラムは6月末日までYouTubeにて期間限定で配信されています。

四旬節黙想会

「困難な中でイエスとともに希望の扉を開いていこう」をテーマに

3月21日(土)、四旬節黙想会が主聖堂で開催されました。主聖堂では130名ほどが参加したほか、ライブ配信もされ、多数の同時視聴がありました。「困難な中でイエスとともに希望の扉を開いていこう」をテーマに、レンゾ・デ・ルカ神父(イエズス会日本管区長)が黙想を指導。今年度は教会ウェブサイトで事前に提供された資料をもとに進行されました。

(担当E)

冒頭、主任司祭(当時)の英神父が「列聖400周年のイグナチオの霊性を深めるような黙想会にしたい」と挨拶され、黙想会が始まりました。



以下、レンゾ神父の講話。

第一部
「グローバルな視点から見た希望の扉」

講話は講話として、皆さ

んが神さまの前で祈ることが大切。お話は祈りのヒントであって、中心ではありません。

最初は聖書の言葉(マタイ8:23-27)から始めましょう。イエスさまと弟子が船に乗り込んだあと、嵐に見舞われます。イエスさまは眠っておられるのですが、これがまさに私たちの今の世界です。コロナが起って大騒ぎになり、戦争の問題があります。ミャンマーの問題や阿蘇山の噴火もありました。なのに神さまは何もしてくれないではないか？皆さんも「なぜ神さまは私たちの願いを聞いてくれないのか」とパニックになってい

るかもしれない。弟子たちもそうでした。

しかしイエスさまは「なぜ怖がるのか。信仰の薄いものたちよ」とおっしゃいます。弟子たちは海の専門家で、大工の子であるイエスさまと違って海の怖さを知っている男たちです。その怖さが現実ですが、それを超えるイエスさまがいるということ、私たちは分かっているでしょう。本当は分かっているではない生き方をしていないでしょうか。今日の黙想会はそれを考えるための時間だと思っています。

ここで教皇の言葉を見てみましょう。まだ正式な翻訳がないので私の訳で紹介します。

時々、私たちの前にある



▲画像を用い、わかりやすく話して下さったレンゾ神父

挑戦を見て圧倒されます。しかし、落胆することがありません。共にいる方が居ます。隔離が強いられ、苦しさで無力さ、恐怖さえを味わいます。しかし、それにこの危機からよくなるチャンスがあります。

主は使い捨てではなく、奉仕の文化を求めています。しかし、他人の現実に関心がなければ、奉仕することができません。たどりつくため、目を開け、他人の苦しみが自分に触れることをゆるし、聖霊が境界から語って下さることが聞こえますように。

("Let Us Dream" The Path to a better Future (2020))

前向きですね。大変な事

があるけれど、それを通して私たちがよくなる可能性があるので、と今までの偏った生き方、社会の考えから回心するチャンスだと祈りの中で見てほしいです。コロナがチャンスだと見たか、ただ過ぎ去ったらい

い災いなのかと。

ここで皆さんの祈りのために、いくつかの質問を出します。

1. 希望を持って生きていますか
2. 問題があるときに神さまを頼りにしていますか
3. 赦すことができますか 赦す体験を思い起こしましょう
4. 周りの人々に希望をもたらしますか

(祈りのために)

ここで沈黙のうちに祈って頂きたいと思います。

第二部
「キリシタンの信仰から見た希望の扉」

ザビエル来日の際に霊操が持ち込まれ、1607年には『スピリツアル修行』という翻訳本が出版されました。

高山右近はフィリピンへ追放される前、イエズス会が

与えた霊操と観想を欲し、ペドロ・モレホン神父が指導したと書かれています。

これは私たち一人ひとり、信徒である以上祈りを捧げる必要があることを示しています。右近もフィリピンへ追放される前、気持ちが落ち着かなかったことでしよう。その中で祈りに進もうとした決断が私たちにとっては参考になります。

また55人が処刑された、1622年の元和の大殉教に際し、「組(日本人コミュニティ)」の熱心さがローマに報告されています。そこにはイグナチオとザビエルの列聖が、彼らにとって励ましにもなったとあります。彼らは禁教の中にあつて、2人の列聖を祝福しました。



St Ignace Catholic Church Tokyo

イグナチオの名で新たに組を作った600人は、愛情と尊敬を持ってイグナチオの業績を賛美したと言います。危機感の中で十字架を背負っていく覚悟を持ちました。

彼らは私たちの先輩でもあります。日本の教会は宣教師だけではなく、信徒を中心とした教会であるという歴史を持っているというこゝとです。現代の私たちにとても大きな励まし、力になっています。絶対的に神父が不足している現実には直面したのは、現代が最初ではありません。しかし信徒たちは自分たちで組を作り信仰を守り続けていました。その遺伝子が皆さんの中にもあり、そのように今も昔も神さまは導いてくださるという確信を、私たちは持たなければならぬでしょう。

17世紀の「マリア十五玄義図」にはイグナチオとザビエルが御聖体を拝む様子が描かれています。この段階で日本の信仰の中には彼らがいることがわかります。同時にこれは彼らを拝むのではなく、彼らを通して聖体を拝むことが描かれています。

るのです。私たちは聖人をほめたたえるのではなく、聖人を通して神さまをほめたたえることが大切です。

希望がないところに希望を見いだすのは、信仰の力です。私たちは信仰を、自分の力でどうにかするといふものではなく、恵みとしていただいています。それを私たちは生かしていくように意識することが大事です。「聖人たちや殉教者たちは立派な人物で、私にはそんなことは出来ない」という、そんな言い逃れをしなくてはなりません。

今日の黙想会を通して自分に与えられた信仰は、この立派な先輩たちに負けない恵みであることを知りましょう。ただ私たちは彼らと違い、十分に生かしてはいないと言っています。私たちは彼らと変わらない信仰をいただいています。ですから感謝をすることが非常に大切です。私たちは少しでも、この四旬節を通してそれに近づき、より霊的な生き方をするように、その恵みを願って祈り、ミサで終えたいと思います。

終えたいと思います。

聖イグナチオと聖フランシスコ・ザビエル 列聖400周年ミサ

黙想会の最後には、聖イグナチオ・聖フランシスコ列聖400年記念ミサが行われました。聖書朗読(エレミヤ20:7-9、ルカ14:25-33)を受けてレンゾ神父は説教の中で、人間の傲慢さと神の力に頼る生き方について説きました。

(担当E)

「エレミヤの預言」には勝ち負けの話が出てきます。預言者は神さまに「あなたの勝ちです」と言う。神さまの勝ちに決まっているのですが、神さまと戦った預言者の姿は私たち一人ひとりの姿でもあります。今日の黙想会の話と同じで、彼は自分が何でも出来るかのようになっている。下手をしたら神さまに対しても自分



St Ignace Catholic Church Tokyo

が勝っているかのように思っています。それは傲慢です。それは回心する前の聖イグナチオの姿そのものです。彼はかつてそういう生き方をしていた。勝てると思いつつも、仲間は命を落とし、戦いに敗れ、自分は怪我一つで何も出来ない……ということを知りました。そんな彼と同じように、神さまに「私の負けです」と素直に言えたら四旬節の立派な回心です。

信仰によって神さまに頼るしかないような生き方が望まれているのは、「信仰がなくても自分が頑張れる人間だと思ってしまう傲慢」さがあるからです。自分の力によって勝負が決まるのではなく、神さまに頼っている問題は無いのだと、私たちは改めて意識して行きたいですね。

2022年度信徒代表挨拶

2022年度信徒代表を拝命いたしました。です。丁寧に、一生懸命に、目の前のことに対応していきたいと思ひます。

コロナ禍中、典礼・配信チームを始め、教会を支えてくださった皆様方に心から感謝いたします。

一方、教会に来ることが叶わず、ミサ参列や活動の継続を断念された方々がたくさんいらしたと、そして活動に復帰できないまま引退を決意された先輩方が少なからずいらしたことは、とても心が痛みます。

この春、まだ不安定な状況の中でも教会活動が再開されていきます。様々な改変の必要も予想されますが、先輩方の「お働き」への尊敬と感謝を忘れません。先人の正しい行いは、やり方は世に連れ代わっても、私たちと新しい仲間の行くべき方向、主イエスを指し示しています。

教会は、新主任司祭オチョア神父様をお迎えして歩みが続けています。

『イエスのたたく希望の扉』を、教会員の皆様と一緒

に開いていきますようにと願っています。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

▲ 2022年度信徒評議員のみなさん

新信徒評議員挨拶

1996年に受洗し、イグナチオ教会共同体に迎えられ各種奉仕活動を通して多くの出会いに恵まれました。現在は信徒交流関連グループを中心に活動しております。新年度からは評議員としても宜しくお願いいたします。

岩島神父様の講座で学び2012年に受洗、四ツ谷おにぎり仲間とクリーンアップグループで活動しています。初めてですが、奉仕の役目を頑張つて務めたいと願っています。どうぞよろしくお願ひします。

初めて評議員に。霊名はベルナル。岩島神父の下で受洗。それ以後、岩島神父「信徒の月例会」ヘルパー。コロナ禍の教会でのつながりを模索しながら微力ですが奉仕させていただきます。よろしくお願ひいたします。

(五十音順)

マルタとマリアの会で、教会行事に関わるご奉仕をしてきました。マザーテレサの御祈りのように、必要としている方の手や足になれるようつとめてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

教会学校父母会から始まり、子ども図書、クリーンアップ、先唱、朗読、またミッション2030などに参加してきました。我が家のような温かい教会作りを目指して励んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

長崎・五島の出身です。幼い頃から親しんでいた聖歌で当教会とご縁がありました。聖歌隊、ウエルカムテーブルなどの活動を通して、共同体、協働の課題を痛感しております。ご指導よろしくお願ひいたします。

2022年度信徒評議員役割担当

(敬称略)

信徒代表

副代表

書記

会計

総務

ミッション2030役割担当(4つの柱を軸に)

・ 祈りを深める

・ 典礼

・ 福音を伝える

・ 広報

・ 共同体を生きる

・ 教会学校

・ 国際

・ 活動グループ

・ 信徒交流

・ 福祉関連

・ 講座

・ 祈りを深める

・ 宣教協力体

・ AP連携担当

・ ミッション2030小委員会



Family of St. Ignatius

～ベトナム語共同体から～

ベトナム人グループは以前から当教会で信仰生活を送ってきました。数年前から、技能実習生や留学生として日本にきたベトナム人が増加し、その中にはカトリック信者も多いのです。彼らに同伴するために「アン・ベトナムセンター」を開設することにしました。このセンターの主な使命は当教会に集まるベトナム人カトリックの信者を世話すること（典礼など）と同時に、宗教を問わずに、

日本にいるベトナム人の生活を支えることです。特に、技能実習生と留学生のために活動します。日本人の信者やたくさんの方々の団体とつながって、彼らを支援し続けています。2020年からコロナ禍のため、大変な生活を送っている人々が増えてきたので、技能実習生のためのホットライン相談を開き、これからも続けたいと考えています。労働環境や毎日の生活などを含めて、相談したいことがあったら、誰でも受けられます。このホットライン相談はベトナム人だけではなく、他の国の方々も相談を受けることができるような体制を検討しています。

● 4月の宣教司牧評議会からのお知らせ ●

(4月7日開催)

1. ミッション 2030 小委員会からの答申が承認されました。

答申内容は、「教会活動グループにおける個人情報の取扱い(案)」とミッション 2030 の AP4 の区分に基づいた「教会活動グループ」の分類案。今後の教会活動連絡会議のあり方について参考とする。

2. 教会活動グループの登録

講座関連の 14 グループ、教会報マジスから「教会活動グループ基本シート」の提出があり登録を承認しました。

＊活動グループ登録の各講座名は省略させていただきました。

3. 活動グループ合併

図書グループは子ども図書と合併し「イグナチオ文庫」となります。

● 金婚式・銀婚式を迎えられる方々へ ●

聖イグナチオ教会では、当教会所属の信徒で今年結婚生活 50 周年、25 周年をお迎えになる方々のために、パチカンが発行する「金婚式・銀婚式祝福記念証書」を授与できるように手配させていただいています。

ご希望の方は、案内チラシをご覧ください。申込書に必要事項を記入して、教会事務室に提出されるか、郵送または FAX にてお申し込みください。

申込締切は 7月1日(金)(厳守)

祝福記念証書は 10 月 30 日(日) 10 時、結婚感謝ミサにおいて授与される予定です

● ウクライナ難民支援金の報告とお礼 ●

この 3 月に設けました銀行口座「ウクライナ難民支援金」に聖イグナチオ教会から 4 回に分けて 12,857,265 円の振込をいただきました。他にも個人として振込んで下さった方がおられるかもしれません。ご報告するとともに、寛大に寄付をして下さった信徒の方々に心よりお礼申し上げます。

集まった支援金は早速ローマ本部にあるイエズス会の難民支援組織 JRS に送金致しました。困難な状況にあるウクライナ難民の救済のために役立ててくださると思います。一日も早く平和が回復されますように祈っています。

イエズス会日本管区 管区会計室責任者
赤松 廣政 SJ

お詫び

2022 年度年間予定表の訂正と追記です。

- ・ 6 月 24 日(金)洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日 (誤)
- 6 月 23 日(木)洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日 (正)
- ・ 6 月 24 日(金)イエスのみ心の祭日⇒追記

● 「4 月のお知らせ」英神父様からの挨拶 ●

新型コロナウイルス感染症対応について、毎月英神父様から「お知らせ」が出ていましたが、「4 月のお知らせ」が異動のため最後となりました。みなさまへの挨拶を掲載いたします。



私が伝えてきた月々のお知らせはこれが最後になると思います。コロナウイルスの感染拡大の中、さまざまな制限を行うために、やむなくこのような毎月のお知らせを出し続けてきました。まだ忍耐の日々が続きますが、新しい主任司祭のもと、力を合わせて歩み続けてください。聖イグナチオ教会という活気ある教会で働いたことをうれしく思います。今までありがとうございました。

感染が落ち着いて、関西に来られるときは、どうぞ六甲教会を訪ねてください(7 月末まではイグナチオ年なので、六甲教会で祈りをささげるならば、全免償が得られます)。よい復活祭を。

訃報 (R.I.P.) クラウス・リーゼンフーバー 神父

3 月 31 日(木) ロヨラハウスにて帰天されました。83 歳。

葬儀は 4 月 6 日(水)、聖イグナチオ教会で新型コロナウイルス対策により非公開(オンライン配信)で執り行われました。

リーゼンフーバー神父様は聖イグナチオ教会で入門講座、社会講座を開講し、霊的指導、司牧活動に従事されました。

略歴

1938 年 7 月 29 日 ドイツ・フランクフルト生まれ
1958 年 4 月 16 日 イエズス会入会(ウエストファーレン)
1967 年 8 月 29 日 来日
1971 年 3 月 13 日 司祭叙階(東京)
1969 年～2009 年 上智大学で教える
中世哲学研究室長、中世思想研究所長、
哲学研究科委員長、哲学科長を歴任
2009 年～2019 年 霊的指導、司牧活動
2019 年 2 月～ ロヨラハウス
2022 年 3 月 31 日 帰天



ようこそ！ 新主任司祭 オチョア神父様

4月21日(木)、新たに主任司祭になられたサトルニノ・オチョア神父が当教会に到着されました。オチョア神父は、1999年から2012年にかけて、当教会で助任司祭を務められていました。

オチョア神父には、6月号の教会報「マジス」で、巻頭言をご執筆いただく予定です。

オチョア神父様、
どうぞよろしく
お願い申し上げます



▶2022年1月1日・元旦ミサで、共同司式を行われた際のオチョア神父(右)と英神父

5月の典礼と行事

1 (日) 復活節第3主日 労働者聖ヨセフの日	改宗式 10:00 ミサ	
6 (金) 初金曜日		
8 (日) 復活節第4主日	子どもとともにささげるミサ 10:00	世界召命祈願の日
15 (日) 復活節第5主日	ミサがわかるセミナー 13:00	
22 (日) 復活節第6主日	教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール	世界広報の日
29 (日) 主の昇天の祭日	堅信準備会① 11:15 ヨセフホール	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：サトルニノ・オチョア

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間 Mass

【平日 Weekday】

7:00 (聖体顕示) 主聖堂 Main Chapel

12:00/18:00 (ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認)

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Việt Nam) /16:30 (English)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町 6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック